

---

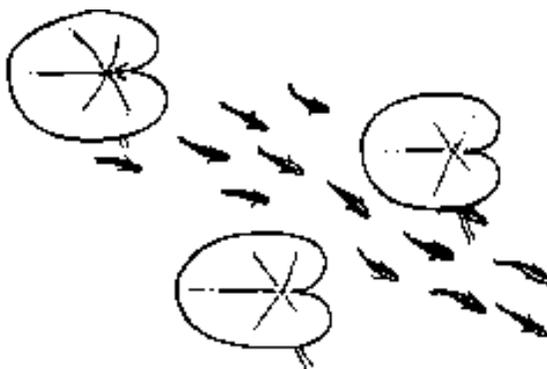
# 河北瀉湖沼研究所通信

---

Vol. 5 No. 3

## メダカの世紀

春の小川はさらさら流る  
エビやメダカや子ブナの群に  
今日も一日ひなたに出でて  
遊べ遊べとささやく如く



上の尋常小学校唱歌をご存じの方はもはや少ないであろう。

最近、都会の学校ではヒメダカを飼って教材としているところが多い。金魚を見せてこれが子ブナだと教えるようなものだ。

私は永年、研究室でメダカのお世話になった。河北瀉周辺でいくらでも採集することが出来た。メダカは日本をはじめ東洋の一部にしか生息しないが、動物学的には発生学・生理学・遺伝学などの研究材料としてはモルモットや実験用ネズミと同様にきわめて有名である。かけ出しの頃、メダカを使った研究成果を英文で発表しようとしてメダカの英文名にはたと困った。やむを得ず、Japanese killfish, *Oryzias latipes* と書いてさるアメリカ人学者に原稿を見てもらったところ、なんと Medaka, *Oryzias latipes* と書けという。Medaka は立派な国際語だということである。参考のために、killfish は欧米のメダカに似た魚で、メダカとは大いに異なる。また、*Oryzias latipes* はメダカの学名で、米粒のように小さく、幅広の足（ひれのこ）をもった魚の意で、メダカの特徴をよく表している。

近年、メダカが絶滅危惧種と指定され、その保護が叫ばれるようになった。河北瀉周辺からもほとんどその姿が見えなくなった。原因は様々考えられるが、その最大のものは農地改良に伴う水路などのコンクリート化であると思われる。

日本では欧州や中国と違って自然破壊が進行したのは比較的新しく、主として 20 世紀に入ってからであると考えて良い。今世紀のはじめつまり明治の中頃の我が国は、深い緑におおわれ、まことに美しい山河に囲まれていたことは数多く残る当時の様々な記録や写真、また多くの文豪が残した随筆などによってうかがえる。20 世紀といっても、もっとも激しく自然破壊が進んだのは戦後、それも高度経済成長期以後で、その歴史は比較的浅い。何世紀もの大昔から森林伐採を繰り返してきたヨーロッパや中国とは事情が異なる。

中国では万里の長城が森を滅ぼしたといわれ、またヨーロッパでは製鉄が森林を滅ぼしたといわれる。万里の長城の築造のため想像

を絶する大量の煉瓦の焼成が必要とされ、そのために紀元前の昔から森林伐採が繰り返されてきた。結果として土壌の劣化が進み、緑の回復はきわめて深刻になった。昨年初めて中国を訪れる機会に恵まれ、上海と南京の間を列車で行き来し、沿線の自然をつぶさに見て緑の少なさに驚いた。ヨーロッパでは近世のエネルギー革命にいたるまで製鉄の熱源として薪炭に依存してきたが、そのためヨーロッパアルプスの山岳地帯を除いてほとんどの森林が消滅したといわれる。さいわいヨーロッパではそれに対する反省が早く、各地で植林が活発になった。今では立派な二次林が形成され、野山に限らず都市にもまた緑したたる美しい人工自然美が造られたのであるが、それには2世紀以上の年月を要したといわれる。破壊の歴史が長ければ長いほど修復に時間を要することを物語っていると考えて良い。我が国は木の文化である一方、製鉄の歴史も

長い、幸いにして名だたるアジア・モンソン地帯の多雨国で、緑の復元力が旺盛であったため、自然破壊の恐怖に対する反省が遅かったといつてよい。

メダカを再び私たちの周りによみがえらせるためには単に用水路の改善のみならず、それにふさわしい奥深い自然の生態系が整わなければならないことはいうまでもない。メダカはその学名が示すとおり米粒のような小さな存在だが、「日本の川にメダカをよみがえらせましょう」という訴えは、今世紀初頭の自然を取り戻すという深い背景を背負っていることを考えれば、世紀を越えたまことに大きな問題である。私たちの河北潟湖沼研究所の第一の課題は「メダカの復活」にあると考えたいし、また来るべき新世紀はメダカの世紀としたいと願う昨今ではある。(定塚謙二 河北潟湖沼研究所友の会会長)

編集者注：地球上には少なくとも300万種の生物がいると言われていています。それぞれの種には、国際的に共通の名前として、ラテン語の2語からなる「学名」が与えられています。学名は印刷物ではイタリック(斜字体)で表されます。以下に学名の例をいくつかあげておきます。

メダカ *Oryzias latipes*

アメリカザリガニ *Procambarus clarkii*

コハクチョウ *Cygnus columbianus* ヒト *Homo sapiens*

みなさんも、手もとにある図鑑類を開いてみて下さい。

## 河北潟湖沼研究所機関誌『河北潟総合研究第3巻』

河北潟湖沼研究所では機関誌として『河北潟総合研究』を発行しています。この機関誌は、河北潟や河北潟地域の自然、環境、生活、文化、歴史などに関する研究成果の発表の場として、また地域環境保全・地域振興に関する学際的・総合的な研究交流の場として機能することを目指して年1回発行されます。現在この機関誌は、石川県内および近隣の大学、博物館や図書館に送られています。

去る11月に第3巻が発行されました。その内容は、河北潟の二十余年(大串龍一)、河北潟周辺の水生昆虫(西原昇吾)、河北潟干拓地幹線排水路水質調査(沢野伸浩)、学校教育における環境教育の現状と課題-石川県下の学校へのアンケートの結果から-(谷内明慶・浅見洋)、借坑性ハチ類の環境指標生物としての適用性-金沢市内における調査結果から-(石原一彦)、河北潟保全に関する参考事例-千曲川中州の保護運動-(平松新一)、ビオトープ造成の現状と石川県内での実例紹介(高橋久)。

この機関誌は、「友の会」の会員には無料で配布されます。また、会員以外でご希望の方は研究所にて1000円で購入することができます。

### 河北潟総合研究

Kahokugata  
Lake  
Science



河北潟湖沼研究所  
河北潟総合研究  
Kahokugata Lake Science

## 石川県下の学校への環境教育に関するアンケート結果について

谷内明慶・浅見 洋（河北潟湖沼研究所環境倫理委員会）著  
「学校教育における環境教育の現状と課題 - 石川県下の学校へのアンケートの結果から - 」  
より

地球温暖化防止石川連絡会は、2002年から導入される「総合的な学習」に先立って、石川県下の小、中、高等学校及び特殊学校に対し、平成10年11～12月に「環境教育への取り組みについて」のアンケートを実施しました。そしてこのアンケートの集計結果とその分析から、学校現場における環境教育の現状、理解、将来への取り組みについて報告、検証し、それらに基づいて環境教育への今後の課題、実施方法について若干の考察と提言を行っています。

このアンケートでは、石川県下の小学校から175名、中学校81名、高等学校409名、特殊学校59名の教員より回答が寄せられました。ここでは、アンケート中の5項目18問のうちの5問の集計結果を紹介したいと思います。結果は、左から学校の種別、回答数、〈はい、いいえ、無答〉の割合（％）を示します。

問 貴校では、環境教育の必要性を感じていますか。

	回答数	はい	いいえ	無答
小学	(175)	93.7	0.6	5.7
中学	(81)	91.4	4.9	3.7
高校	(409)	91.2	5.9	2.9
特殊	(59)	88.1	5.1	6.8

問 環境教育に取り組んでこられたことに関して

教員を環境担当者に当て、研究させている。

	回答数	はい	いいえ	無答
小学	(175)	36.6	52.6	10.9
中学	(81)	34.6	56.8	8.6
高校	(409)	7.3	71.6	21.0
特殊	(59)	1.7	84.7	13.6

教員に環境教育を進めるプロジェクトを推進させる。

	回答数	はい	いいえ	無答
小学	(175)	36.6	44.6	18.9
中学	(81)	33.3	53.1	13.6
高校	(409)	23.2	47.2	29.6
特殊	(59)	10.2	62.7	27.1

環境教育を進めるために、資料の購入や研修への参加に努めている。

	回答数	はい	いいえ	無答
小学	(175)	60.0	34.9	5.2
中学	(81)	53.1	40.7	6.2
高校	(409)	26.2	57.7	16.1
特殊	(59)	10.2	71.2	18.6

問 今後、環境教育に関して進めていきたいと考えている事項について

外部からゲスト・ティチャーを招く。

	回答数	はい	いいえ	無答
小学	(175)	70.3	18.3	11.4
中学	(81)	55.6	30.9	13.6
高校	(409)	47.9	23.5	28.6
特殊	(59)	32.2	49.2	22.0

いずれの学校でも環境教育には高い関心を示していますが、実際の取り組みはまちまちです。アンケート実施から約1年、学校側の現状も変わりつつあります。

河北潟湖沼研究所は地域における環境教育を推進するという観点から、河北潟周辺環境に詳しい講師を派遣する体制を整えつつあります。

引用文献：

谷内明慶・浅見 洋．1999．学校教育における環境教育の現状と課題 - 石川県下の学校へのアンケートの結果から - ．河北潟総合研究．3：11 - 25．



## 河北潟湖沼研究所・最近の活動

### 「河北潟」自然観察会

10月3日(日)の第8回自然観察会には15名の参加者がありました。宇ノ気町大崎橋と干拓地内ハス田付近にて野鳥観察をしました。参加した子供たちは水生生物の採集もしました。ハス田付近の水路には非常に多くのアメリカザリガニがいることがわかりました。

また、12月5日(日)の第9回自然観察会には13名の方が参加しました。県野鳥観察舎ではチュウヒやカモ類を、また津幡町能瀬川付近でコハクチョウ約100羽が餌をついばんでいるのを観察しました。

### 内灘町水質浄化実験施設の整備

10月31日(日)と11月3日(水)に、のべ10名の参加により実験施設周辺の草刈りおよび実験池のビニールシート張りが行われました。(来る4月29日(土)のみどりの日には、実験池のビニールシートの取りはずし作業を予定しています。手伝いに参加して下さる方を募集しています。)

### 「河北潟将来構想」パンフレット

このパンフレットには、河北潟の過去から現在までの環境の変化を調査した結果を基に、河北潟の保全すべき環境と改良すべき環境を示してあります。また干拓地を農地としていかに野生生物との共存空間としていくかの提案がされています。

このパンフレットの請求・お問い合わせは、河北潟湖沼研究所生物委員会 TEL: 076-261-6951またはFAX: 076-265-3435まで。

### 河北潟湖沼研究所5周年記念シンポジウム

去る11月27(土)、28(日)に開催された記念シンポジウムには、石川県内外から約100名の方が参加しました。現在、このシンポジウムの記録をまとめた記念誌を製作中です。

### 河北潟共和国

記念シンポジウムでは河北潟共和国が中心となって料理交流会を開催しました。ボーイスカウト、金沢エスペラント会、金沢大学、青陵女子短期大学、金沢市内の高校生、石川県国際交流団体の協力も得て、海外6ヶ国(中国、韓国、タイ、パングラディッシュ、ロシア、スウェーデン)出身の16人と共に各国の料理を行いました。

### ホームページ開設

河北潟湖沼研究所ホームページ(アドレス <http://kahoku.soc.or.jp/>)では、研究所の概要、河北潟の環境、イベントなどの最新情報、研究成果を紹介しています。ぜひアクセスして下さい。

## イベントのお知らせ

### 「河北潟」自然観察会

恒例の観察会を以下の通り実施いたします。

#### ・第10回「河北潟」自然観察会

日時: 2月6日(日) 午前9時~12時  
冬場の野鳥観察をします。

#### ・第11回「河北潟」自然観察会

日時: 4月2日(日) 午前9時~12時  
河北潟の春の息吹を探します。

集合場所: 河北潟干拓地第1号支道

内灘町水質浄化実験施設前

参加費: 100円(保険代)

自然観察会についてのお問い合わせは、河北潟湖沼研究所金沢事務局 TEL: 076-261-6951まで。どなたでもお気軽にご参加下さい。

## 友の会事務局からの連絡

現在、「友の会」会則および総会の準備を進めています。

1999年度会費(会計年度は3月31日までです)の納入をお願いいたします。郵便振替の場合は、

郵便振替口座: 00750-5-45852

加入者名: 河北潟湖沼研究所友の会

河北潟湖沼研究所通信 VOL.5 NO.3

1999年12月30日発行

発行所 河北潟湖沼研究所友の会

〒920-0051 石川県金沢市二口町八58

TEL 076-261-6951

FAX 076-265-3435

